

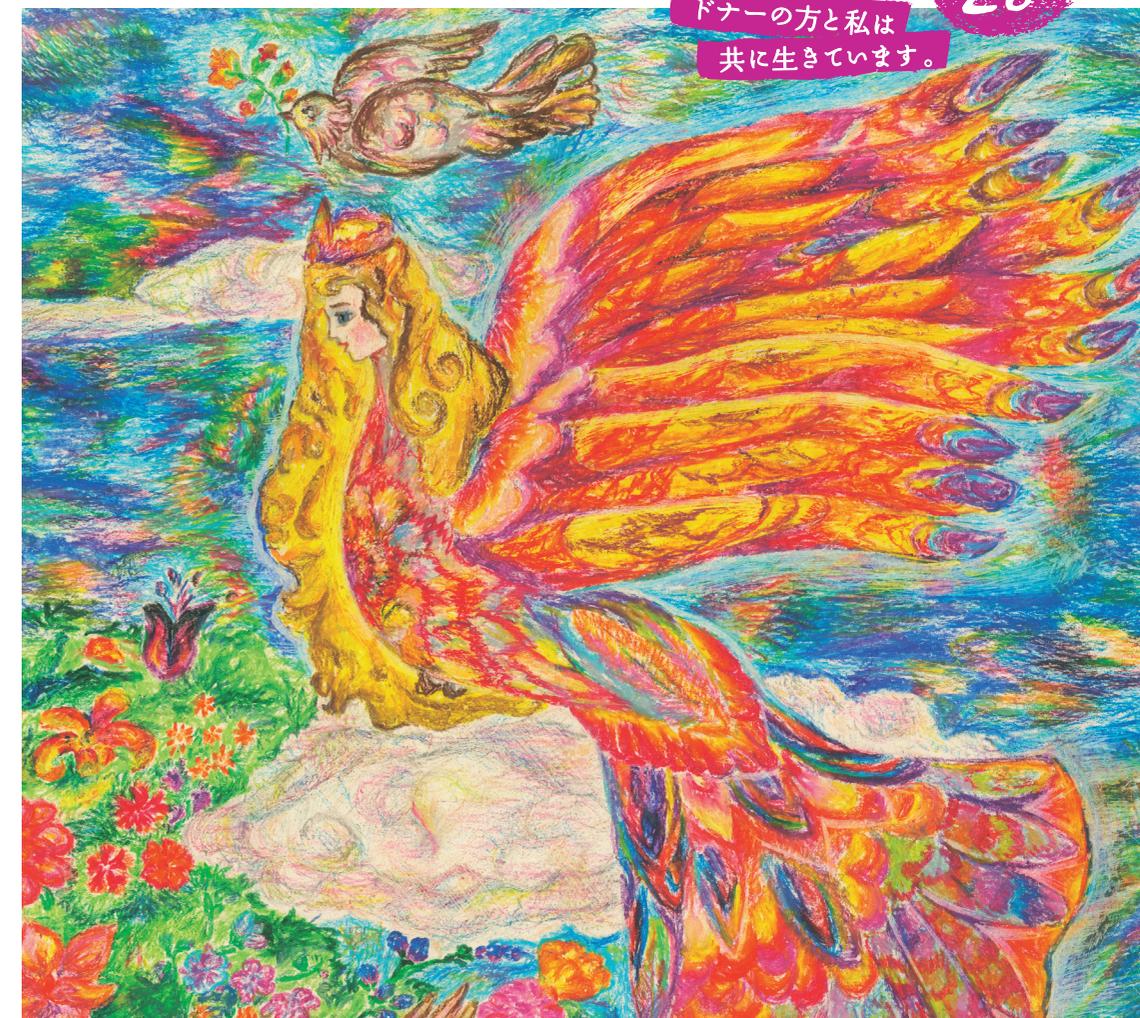


# think transplant

臓器移植経験者の手記

Vol. 28

ドナーの方と私は  
共に生きています。



Title:幸せの鳥 作者名:ドルジーニナ・リザ Age:14 ロシア



この表紙の絵は、「子供地球基金」により提供された画材等によって世界中の子供達によって描かれたものです。

## 2015年度グリーンリボン キャンペーンポスター



ポスター (B3サイズ2枚1組)

2015年度グリーンリボンキャンペーンポスターが完成しました。グリーンリボンキャンペーンとは、より多くの人に移植医療について理解していただくため、毎年10月の臓器移植普及推進月間を中心に展開している活動です。このポスターは、肝臓移植を受けたお子様とご家族による手記が2枚1組となっています。ポスターの掲示にご協力いただける方は、下記までご連絡ください。

## インターネットで臓器提供の意思表示ができます!

日本臓器移植ネットワークのホームページで、臓器提供意思登録ができます。登録すると、IDの入った登録カードが発行されます。本登録が完了すると臓器提供の際に、本人の意思が確認できる対象となります。

ホームページ

<http://www.jotnw.or.jp>

モバイルサイト

<http://www.jotnw.or.jp/m>



## 臓器移植に関するお問い合わせ先

フリーダイヤル ☎ 0120-78-1069

ホームページ <http://www.jotnw.or.jp> にも  
さまざまな情報が掲載されています。 臓器移植 検索



## JOT NW (公社) 日本臓器移植ネットワーク

死後に臓器を提供したいという人やその家族の意思を活かし、臓器の移植を希望する人に最善の方法で臓器が贈られるように橋渡しをする日本で唯一の組織です。

<http://www.jotnw.or.jp/m>

## ● 医療機関の皆様へ

脳死後でも心臓が停止した死後でも、ご本人の意思が不明な場合、ご家族の承諾で臓器が提供できるようになりました。ドナー情報には、24時間対応しております。ご本人の臓器提供を希望する意思表示があるか、ご本人の意思が不明な場合に、ご家族が臓器提供について説明を聴くことを希望されましたら、下記フリーダイヤルにてお知らせください。

ドナー情報用全国共通連絡先 ☎ 0120-22-0149

2015.10

## One Point

ワンポイント

## 糖尿病と膵臓移植について



糖尿病には様々なタイプがあります。  
1型糖尿病は、子どもや若年者に多く発症し、  
その症状は突発的に現れます。

1型糖尿病は、インスリンを作る膵臓の細胞が破壊・消失することで発症します。インスリンが全く、またはごくわずしか分泌されなくなるため、インスリン注射が欠かせません。子どもや若年者に多く発症し、日本での年間発症率は10万人あたり1~2名と言われています。

2型糖尿病は、遺伝的体質に肥満・運動不足・ストレスなどが加わることで発症します。生活習慣病の1つであり、治療法としては、食事療法・運動療法・薬物療法があります。日本の糖尿病患者さんの約95%がこの2型糖尿病とされています。

その他にも、遺伝子の異常や他の病気・薬剤に伴って起こる糖尿病、妊娠をきっかけに起こる妊娠糖尿病があります。

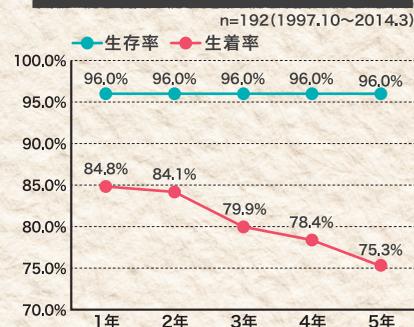


膵臓移植・膵腎同時移植の平均待機期間は約3年7ヵ月。  
移植手術後の5年生存率は96.0%。  
1人でも多くのいのちを救うために、あなたの意思表示が必要です。

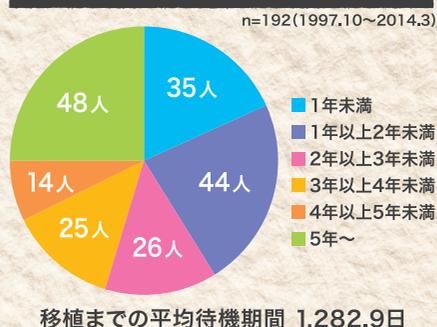
膵臓移植は、主に1型糖尿病の患者さんに膵臓を移植し、インスリン分泌を再開させる根治療法です。また、慢性腎不全を合併している方には膵臓と腎臓の同時移植が行われます。

2014年3月までに、192名の方に膵臓移植及び膵腎同時移植が行われました。しかし臓器提供数が少なく、その待機期間は約3年7ヵ月と長きに渡っています。

### 膵臓・膵腎同時移植後の生存・生着率



### 膵臓・膵腎同時移植を受けられた方の待機時間





「あなたが第一候補に挙がっています。」

この1本の電話で、

私の人生は大きく変わりました。

### 1型糖尿病の発症

10歳になったばかりの冬のことでした。風邪で高熱を出し、1週間ほどで快復したものの、その後どんどん痩せたことから春に総合病院を受診し、1型糖尿病と診断されました。1型糖尿病は生活習慣病である2型糖尿病と違い、発症原因が不明。当時は10万人に1人と言われた珍しい病気で、インスリンを作る細胞が破壊されて自己インスリンが枯渇するため、治療が困難とのことでした。当時のインスリンは1年で効果が切れるため度重なる入院が必要でしたが、小児科の先生はなるべく他の子と同じ学校生活が送れるよう配慮してくれました。怖い低血糖発作も私は自覚症状が強く、重症化する前に対処することができました。中学生までは「なぜ自分だけがこんな病気に！」と辛かったのですが、高校生になる頃には「泣きわめいても逃れられないなら、楽しく過ごそう！」と気持ちを切り替えることができました。その後短大を卒業し、就職も果たし、親が諦めていた結婚もできました。子供が欲しくて婦人科にも通い、ようやく授かることができました。

### 「痛い、辛い」合併症

しかしその頃、恐れていた合併症の症状が現れ始めました。妊娠をきっかけに病歴15年の腎臓への負担が一気に増したのです。腎臓内科では「一生透析にならずに過ごすのは無理」と宣告されました。母体はもたず、妊娠25週で帝王切開となりました。腎機能は出産後一時的に回復したものの再び悪化し、5年後には透析導入となりました。それから私は合併症の恐ろしさを身をもって経験しました。血管が痛んでいたため、人工血管を使用したシャント(透析用血液回路)を保つための手術は月1回。ばね指で動かなくなった手の手術は計4回。

神経障害からくる血圧の乱れによる救急搬送は幾度となく。目の毛細血管が破れた際には失明の可能性にさいなまれ、白内障の手術も受けました。足は感染性壊疽により切断を検討されましたが、当時の先生の「足を切ると余命が15年縮む。若いあなたの足は切りたくない」という言葉で免れることができました。骨を半分以上削る手術も経験しました。壊疽は痛みがかなり強く、自分1人での移動は困難で、全てにおいて家族の助けが必要でした。とても辛い経験であり、自分で歩けた時やお風呂に足を入れられた時の感動は今でも忘れられません。その後も透析時間を延ばすなど努力をしましたがトラブルは絶えず、いつしか「このまま透析を続けていても長くは生きられないだろう」と思うようになりました。痛い、辛い、家族に負担をかけている、それが続く。「早く死んだ方が皆が楽になれるのでは…」とすら思いました。母親から生体隣腎同時移植の話が出ましたが実現しませんでした。「これが私の運命なら、最後まで受け入れるしかない」そう腹をくり、幾らかの時が過ぎたある朝、移植の先生からの電話が鳴ったのです。

### ドナーの方や臓器の力強さへ感謝

「はい、受けます」  
即答して急いで病院へ向かいました。決意は固かったのですが、私にとって移植は未知の手術。とにかく怖かったです。恐怖と闘いながら準備は進み、手術室に入りました。そして、「あなたのように(発病に関して)何の責任もないのに大変な思いをされた患者さんには、移植で元気になってもらいたい」と初診の時にねぎらってくれた、信頼する先生に全てを任せて眠りにつきました。目が覚めたらICUに居ました。個室へ移る頃には、痛みはあるものの、日一日と元気になるのを感じました。「昨日より今日、今日より明日」と力が湧いてくるような感覚。ドナーの方や臓器の力強さに感謝が溢れました。8年振りのおしっこ。その度にお腹をさすり「ありがとう」を繰り返しました。インスリン、透析、合併症の恐怖からの解放。これまで透析や入院で家に居ないことが多かった私に、息子は「母ちゃんがいつも家に居る!」と言いました。646gで生まれた息子は、幾度か死の危険があったものの、乗り越えてくれました。



移植手術後 新たな人生の出発

家族との時間が増え、できなかったこともできるようになりました。皆が「良かったね!」と言ってくれました。でも私は素直に「良かった!」と言えませんでした。

### 移植後の葛藤

私の幸せは誰かの大切な人の死と、それを悲しむご家族の上に成り立っている。悲しんでいる人がいるのに良かったなんて言えない。  
しかしある時お坊さんにこんな言葉を掛けて頂きました。「その方はあなたが移植を待っていたから亡くなったのではない。それとは関係なく、そこで亡くなる定めの方だった。あなたがいたから、ご家族が希望された臓器提供が叶った。気にやむことはない」と。何かが軽くなりました。それからは「本当に良かった!ドナーの方のお陰です」と心から言えるようになりました。ドナーの方と私は共に生きています。

### 命や絆の大切さを伝えていきます

社会復帰もできた現在、これらの経験を多方面で話す機会も頂き、ドナーの方、そのご家族、支えてくださる皆様の素晴らしさと感謝の気持ち、命や絆の大切さを、元気いっぱい姿で伝えています。



学生へ命の大切さを伝えていきます



家族旅行でUSJへ

たくさんの有り難いご縁に恵まれて、共に、元気に、楽しく、充実した毎日を送らせてもらっています。この想いは、感謝という言葉だけでは言い尽くせません。